算数科 小学校 2年

単元名「１０００までの　数」
啓林館　わくわく算数2上

単元の流れ（全１３時間）

単元目標
○1000までの数のよみ方、かき方を理解する。
○10を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算をする。

【第１次】
主な学習内容
◇第１時　折り鶴の数え方を工夫し、100をこえる数のよみ方を知る。

「知識・技能」を定着させるために
位ごとにブロックで表し、お金の模型に置き換え、３桁の数字の構成を理解させる。

【第２次】
主な学習内容
◇第２、３時　３位数について、数字で表したり構成したりする。
◇第４時　10 を 24 個集めるといくつになるかを考え、10 を単位とした数の構成について考える。
10 を単位とした数の分解についてまとめる。
◇第５時　100 を 10 個集めた数 1000 を知る。
1000 の構成や系列を考える。（本時）
◇第６時　１目盛りが10の数直線を見て、650、340、990 はどこになるかを考える。
数の系列についての練習をする。
◇第７時　大きさ比べの仕方を考え、練習する。
◇第８時　練習問題を解く。

「活用」の力の育成のために（第４時）
お金の模型を使い、10円玉が10個集まったら100円玉に置き換える。また100円玉は10円玉に置き換える操作活動を通して、数の相対的な大きさを理解させ、最終的には念頭で数として操作させることを通して思考力を高める。

「知識・技能」を定着させるために（第６時）
数の並び方を見て、数がいくつずつ増えているかに着目させる。

「活用」の力を育てるために（第７時）
・１～９までのカードを持たせ、３枚ずつ並べ、数の大きい方を勝ちとするゲームをする。
・おはじき10個を使って、入った点数を比べ、数の大きい方を勝ちとするゲームをする。

単元構成の意図

本単元では、新たに百の位が導入され、３けたの数、その表し方、よみ方を学習する。それらを基に、1000 までの数の順序、系列、構成、大小比較について理解し、たし算、ひき算を行う。

そこで、量感をとらえさせるために、ブロック操作を取り入れた。

ブロック操作で十進位取り記数法を定着させたあと、ブロックを硬貨の模型に置き換え、１円、10 円、100 円の硬貨が何枚あるか考えるように具体物と対応させた。

100 を超える数の数え方では、すでに、第１学年の 100 までの数で「10 ずつまとめて数える」ことを経験している。そこで、「10 ずつまとめる」という考えを発展させ、10 のまとまりを 10 集めて 100 のまとまりをつくればよいことに気付かせる。「1000」という数では、100 のまとまりを 10 集めて 1000 のまとまりをつくらせ、1000 となることをとらえさせる。この際、数が大きくなるので、ブロックと数直線上の数の大きさをそろえながら、数を数えさせ、ブロックから数直線へととらえ方を移行させる。

【第３次】

主な学習内容

◇第９、10 時　（何十）±（何十）の計算の仕方について知る。

「活用」の力の育成のために

10 円玉に置き換え、10 円玉がいくつ±いくつと考えればよいことに気付かせ、考えが説明できるようにまとめさせる。

【第４次】

主な学習内容

◇第 11、12 時　練習問題を解く。

◇第 13 時　評価テストをする。

「活用」の力を育てるポイント

① 答えを導くために計算棒や位取り板を使って操作をし、その内容を説明する。教師が黒板に説明を書き、他の児童に分かるようにする。

② 十進法の概念を定着し、お金の模型などを使って算数的活動を行うことにより、数の相対的な大きさを理解させる。

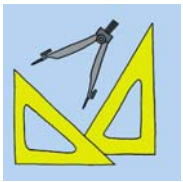
③ 100 を単位とする簡単なたし算・ひき算を行い、桁数が多い問題を作って解くようにさせる。

「知識・技能」定着のためのポイント

① 10 や 100 のまとまりを作り、百の位、十の位、一の位に分けさせる。それぞれのブロックを 100 円玉、10 円玉、1 円玉に置き換えてから、数字で表記させる。

② 1000 という数の構成や系列を理解し、10 や 100 などを単位として、数の大きさをとらえる見方に気付かせる。

③ 数の大小比較の場合、上の位の数字から順に比べていけばよいことに気付かせる。



評価問題 CLICK

HOME

本時の流れへ